

# 郡山地区



川田堂園供養塔群

## 川田橋 ▶かわだはし

有形文化財／建造物

【MAP E-5】

甲突川で唯一残る眼鏡橋である。旧道に架かる現在の橋は、明治34年(1901)に架けられた橋で、橋の欄干は近年元のように復元されたものである。

橋のたもとにある記念碑は、明治9年(1876)に、また猿田彦大神の石碑は、明治7年(1874)に建てられたもので、それ以前から度々の洪水や流失などで、復元や修理が繰り返されたことがわかる。

橋の両岸には川田城跡や川田氏の菩提寺の大川寺跡や川田氏累代の墓石塔群などがある。



●所在地／鹿児島市川田町 ●交通／あいばす 川田中バス停 ●駐車場／無

## 釈迦三尊碑 ▶しゃかさんぞんひ

記念物／史跡

【MAP E-5】

川田橋の近くに、釈迦三尊碑や大川寺銘の碑がある。文禄3年(1594)に建てられ、この辺りを治めていた川田氏の菩提寺(大川寺)が近くにあったことを教えてくれる。

大川の銘がある石碑は河童の神様として崇められ、郡山の民話「殿様と河童どん」はこの石塔が元となって生まれた。



●所在地／鹿児島市川田町 ●交通／あいばす 川田下バス停 ●駐車場／無

## 庚申供養石砌塔 ▶こうしんくようせきせつとう

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP E-5】

川田神社の鳥居前に舟型の石塔があり、「庚申供養石砌塔」と刻銘されている。塔の上部には月輪が彫り込まれ、建てられたのは寛文12年(1672)3月22日となっている。

また、標記の下部には、大川寺9代住職傳白和尚や江戸時代初期川田村に住んでいた郷士や大川寺の檀家の人の名前も読みとれる。



●所在地／鹿児島市川田町 ●交通／あいばす 川田中バス停 ●駐車場／有(神社共用)

## 大川寺跡(川田神社) ▶ おおかわじあと(かわだじんじゃ)

記念物/史跡

【MAP E-5】

この神社には、島津家16代当主義久に仕え軍師として功をなした川田氏12代駿河守義朗が祭られ、祭神は勝軍地藏三尊である。廃仏毀釈前は一族の菩提寺曹洞宗源山大川寺があった。

神社の裏には川田氏累代の墓や大川寺住職の代々の墓がある。戦時中は出兵やその家

族の参拝が多かったという。



●所在地/鹿児島市川田町 ●交通/あいばす 川田中バス停 ●駐車場/有(駐車スペース)

## 川田氏累代墓石塔群 ▶ かわだしるのいだいぼせきとうぐん

市指定/記念物/史跡

【MAP E-5】

## 川田氏11代義秀から26代佐徳夫妻までと代々の住職が眠る



12代川田駿河守義朗の墓を始め、11代義秀以降26代川田佐徳夫妻までの累代、及び大川寺代々の住職の墓石塔11基などがある。

宝篋印塔・五輪塔・無縫塔・角石塔婆などが数多くあり、保存にも気をつかわれている。

また、地藏墓や合掌地藏立像や、万治2年(1659)時の大川寺住職天安禅師の寄進になる石燈籠もある。

川田氏は源姓で、比志島氏の庶家で満家院(郡山町)の川田名主であった。下の川田川の対岸には川田氏の居城であった川田城跡がある。

平成17年(2005)、鹿児島市の記念物(史跡)に指定された。



●所在地/鹿児島市川田町 ●交通/あいばす 川田中バス停 ●駐車場/無(駐車スペース有)

## 南方神社(川田) ▶ みなみかたじんじゃ(かわだ)

有形文化財/建造物

【MAP E-5】

川田神社のすぐ上にこの神社はある。昔は対岸の川田城跡の西方小字諏訪原にあったがここに移設された。

諏訪神社の末社で、永禄6年(1563)に建て替えられたと三国名勝図会にある。「お諏訪さあ」の愛称で、農業の神様として崇拝されていた。鳥居の下には廃仏毀釈で破損した首

欠け仁王像一対がある。



●所在地/鹿児島市川田町 ●交通/あいばす 川田中バス停 ●駐車場/無

## 川田城跡 ▶かわだじょうあと

記念物／史跡

【MAP E-5】

川田氏の本城で、始祖川田盛資から12代義朗が垂水の地頭になるまで、約300年間拠点とした城である。

城内は南北と東西に走る空堀で5つの曲輪まがわが構成されている。曲輪内には井戸跡や土塁などが残っている。四神相応の城造りがなされ、防衛機能の高い堅固な造りになっており、川田氏七代立昌は、文明17年(1485)、島津

ただかど  
忠廉の攻撃からこの城を守ったとされる。

旧名馬越城ともいわれる。



●所在地／鹿児島市川田町 ●交 通／あいばす 川田中バス停 ●駐車場／無

## 川田堂園供養塔群 ▶かわだどうぞのくようとうぐん

県指定／記念物／史跡

【MAP E-5】

### 壮大な供養塔群で川田氏始祖などがねむる



中世のころ郡山は満家院みつえいんと呼ばれ、豪族比志島氏が活躍しており、川田は比志島氏の庶家川田氏の始祖比志島盛資もりすけが領していた。その盛資が父や祖父の菩提ぼだいを弔って建てたも

のである。高さ3.42mもの巨大層塔・五輪塔・宝塔・笠塔婆など供養塔10基を含み数十基からなる壮大な供養塔群である。中でも左側中央にある角石塔は一部欠損があるが、「永仁五年」(1297)の刻字・経文・発願文が刻まれた石塔で、この供養塔群の手掛かりを知る貴重なものである。

昭和38年(1963)、鹿児島県の記念物(史跡)に指定された。



●所在地／鹿児島市川田町 ●交 通／あいばす 県住入口バス停 ●駐車場／無

## 南方井堰水神群 ▶みなみかたいげすいじんぐん

記念物／史跡

【MAP E-5】

南方橋の上方に井堰があり、そこから取り入れた用水路のほとりの木陰の下に、大小の石碑がある。江戸時代堤防と石橋を築造した記念碑と3つの水神碑である。一部文字が判然としないが、文久2年(1862)、天保6年(1835)、宝暦7年(1757)の水神碑で、井堰

修築の証しと見ていい。記念碑には篤志者東門の百左衛門や農民長助の名も読み取れる。



●所在地／鹿児島市川田町 ●交 通／あいばす 南方校バス停 ●駐車場／無

### 三重岳の牧神外 ▶ みえだけのまきがみほか

記念物／史跡

【MAP F-4】

三重岳のいこいの森近くに、この牧神などがある。昔この付近に牧場があり、牛馬の飼育がなされたことがわかる。また記念碑の1つに皆与志地区の転住一同のものもあり、共同の牧神として大切にされてきたのだろう。明和2年(1765)建立の石燈籠や笠塔婆、文政4年(1821)、同7年(1824)の手洗鉢もあり、関係者の熱意を感じるものである。



●所在地／鹿児島市東俣町 ●交 通／あいばす 薩摩永山バス停 ●駐車場／有

### 東門の百左衛門夫妻の墓 ▶ ひがしかどのひやくざえもんふさいのはか

記念物／史跡

【MAP E-5】

百左衛門は東門の農夫で、私財で一带の橋を石橋に架け替えたり、道路や井堰の改修をするなど多くの功績を残している。その功績が認められ、元文2年(1737)鳥津家22代当主継豊から、その志を受け継いだ子3人も、宝暦3年(1753)に24代当主重年から褒章を受けた。一之宮神社に青銅の御幣を奉納した

箱書きにもその名が残る。南方小下の井堰の水神群の中に百左衛門の名も刻まれている。



●所在地／鹿児島市東俣町 ●交 通／あいばす 白石バス停 ●駐車場／無

### 一之宮神社 ▶ いちのみやじんじや

有形文化財／建造物

【MAP E-5】

鳥津家初代当主忠久を中心に生母丹後局と養父惟宗広言を左右に祭り、20数体の忠久隨身らの木像が安置されている。延徳3年(1491)に郡山の地頭村田経安が創建した。所蔵品に鳥津家25代当主重豪寄贈の「降祥」、琉球国使者寄贈の扁額「徳馨」「永頼」などがある。

となっている。

白石バス停から数分の所である。



●所在地／鹿児島市東俣町 ●交 通／あいばす 白石バス停 ●駐車場／有

## 毘沙門城跡 ▶ びしゃもんじょうあと

記念物／史跡

【MAP E-5】

この城跡は、観応元年（1350）8月、北朝方に属した比志島範平が守る東侯城が南朝方の伊集院忠国に包囲され、島津家5代当主貞久は援軍を送るので城を確保するよう命じているという古文書の記録から、早い時期から比志島氏が東侯統治における重要な城であった

ことがわかる。大英団地が東北方向に開け、城松などがあったという。



●所在地／鹿児島市東侯町 ●交通／あいばす 白石バス停 ●駐車場／無

## 後ヶ迫の秋葉神 ▶ うしろがさこのあきはがみ

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP E-5】

東侯町の西下、小字後ヶ迫の台地上にあり、西上・下の共同管理となっている。石祠の台石は2段組で、37cm、塔身部は高さ45cm、幅28cm、奥行き24cmで、整備がよく、秋葉神（火の神）への地域の信仰の深さがわかる。石塔の近くには無線中継の鉄塔が立っている。



●所在地／鹿児島市東侯町(鉄塔横) ●交通／あいばす 東侯駐在所バス停 ●駐車場／無

## 三蔵塚の板碑 ▶ さんぞうづかのいたび

記念物／史跡

【MAP D-4】

陸橋三蔵塚橋を渡った先の小丘上にこの石塔はある。塔高180cmの巨大板碑で、板碑の身部に阿弥陀三尊を表す梵字が彫っており、正面に「南無阿弥陀仏」の名号が、また東面の梵字の下には、「文禄四年乙未十二月時心施主敬白」(文禄4年→1595)の刻銘がある。

昔は下の畑に土俵を造り、六ヶ村相撲が催され賑わった。



●所在地／鹿児島市東侯町 ●交通／あいばす 三蔵塚バス停 ●駐車場／無

## 秋吉の馬頭観音 ▶ あきよしのばとうかんのん

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP E-4】

東侯町の小字秋吉の海拔216mの山頂にあり、横に花尾町と境する250m級の山並みが縦走している。やや台地化した山頂にこの石塔がある。入母屋造りの2基の石祠で左側の石祠の正面には、牛に乗った観音が彫り込まれている。右側の石塔には台座を含め5段から構

成されていたが塔身部はなくなっている。



●所在地／鹿児島市東侯町 ●交通／あいばす 湯屋バス停 ●駐車場／無

## 大英団地の地藏菩薩像 ▶ だいえいだんちのじぞうぼさつぞう

有形民俗文化財 / 民俗資料

【MAP E-4】

県道40号より入り、大英団地1番目の筋を  
入ってすぐ左の木の下に建てられた地藏菩薩  
像で、顔は欠落があつてはつきりしないが、合  
掌した僧の姿が心を引く。他の立像と違い、こ  
この地藏は自然石の浮彫りの像で道行く人々  
を温く見守っている。郡山地域の数少ないお

地藏として大切にされている。



●所在地 / 鹿児島市東俣町 ●交通 / あいばす 大英団地バス停 ●駐車場 / 無

## 西山宗知師の墓 ▶ にしやまそうちしのはか

記念物 / 史跡

【MAP E-4】

この墓は、東俣町の永山集落の公民館の  
上にある。西山院大魯和尚は江戸時代の文  
化年間(1804-1818)、法儀惑乱事件の連座  
により幕府から追放の憂き目に合い逃れ、一向  
宗禁制の薩摩まで逃れながら布教に努めたが、  
遂にここも危くなり永吉村で苦難の生涯を終え

た。永山の講頭坂元は師の徳をたたえ、この  
地に墓を建てた。



●所在地 / 鹿児島市東俣町 ●交通 / あいばす 薩摩永山バス停 ●駐車場 / 無

## 一王子塔 ▶ いちおうじとう

記念物 / 史跡

【MAP E-4】

東俣の湯屋バス停から入った民家裏の丘  
の上に建っているのが、一王子塔である。花  
尾山の山頂にあった熊野神社まで、外に4基  
の王子塔を確認している。この一連の塔は  
京都から和歌山県の熊野神社までの参詣の  
途中設けられた王子社を模したものと考えられ

る。塔高139cmで、塔の中には同類の石が  
収められている。



●所在地 / 鹿児島市東俣町 ●交通 / あいばす 湯屋バス停 ●駐車場 / 無

## 丹後局茶毘所跡 ▶ たんごのつぼねだびしょあと

記念物 / 史跡

【MAP E-3】

この石塔は丹後局の茶毘所跡の石碑で、  
元禄2年(1689) 島津家20代当主綱貴により  
六地藏塔が創建された。文化2年(1805)塔  
破損により25代当主重豪が再建したものの、  
廃仏毀釈により明治8年(1875) 地藏を排し、  
六角柱に建て替え現在に至っている。一連の

史跡として見守られている貴重な存在である。



●所在地 / 鹿児島市花尾町 ●交通 / あいばす 花尾神社前バス停 ●駐車場 / 有(花尾神社)

## 花尾神社本殿（附宮殿三基）・祝詞殿・幣殿・拝殿

▶はなおじんじゃほんでん（つけたりぐうでんさんき）・のりとでん・へいでん・はいでん

県指定／有形文化財／建造物

【MAP E-3】

### 薩摩日光と称され島津家初代当主忠久の両親がねむる

花尾神社は、花尾山の麓にあり絢爛豪華な建物で、その美しさは「薩摩日光」と称される。相殿祭神は清和天皇、主神は源頼朝・島津家初代忠久の母丹後局・従祀神に僧永金を祭つてある。神社の創建は御堂を建て源頼朝の尊像を安置した建保6年（1218）と言われている。

島津家15代当主貴久は、花尾権現及び平等王院の復興を図り、19代当主光久は、諸殿の大修理を成し、すべて頗る美を尽くした。現社殿は、21代当主吉貴の正徳3年（1713）の建造となっている。

社殿は奥から、本殿（前室と内殿）祝詞殿・幣殿・拝殿からなり、権現造りによく似た構造で、向拝の屋根には唐破風を、拝殿の屋根には千鳥破風がつけられ、本殿は入母屋造りで、豪

壮な神社として印象を深くする。また、向拝柱の上方には阿吽形の獅子鼻や猿鼻、柱間に入れられた内外の鬘股や出組や平三斗の組物など、極彩色の装飾が施され、観る人を感動させている。祝詞殿・幣殿・拝殿の格天井には、401枚の美しい草花の絵が描かれ、可憐な姿を留めている。

本殿の内室には、3つの大きな白木造りの宮殿があり、その厨子の中には祭神の木像が安置され、荘厳さを増す。本殿の床下は切石敷になっていて、また、裏には空洞を設けるなど湿気への配慮もなされている。

平成14年（2002）、鹿児島県の有形文化財（建造物）に指定された。



●所在地／鹿児島市花尾町 ●交 通／あいばす 花尾神社前バス停 ●駐車場／有

## 花尾神社の宝物と扁額 ▶ はなおじんじやのほうもつとへんがく

有形文化財 / 美術工芸品

【MAP E-3】

花尾神社には、島津家縁の人々から贈られた宝剣・御鏡・頼朝公御笏の真筆2幅・鬘入れなど、神社の宝物として大切に保存されている。

また、社殿の壁面には、たくさんの奉納額や琉球の慶賀使や謝恩使が贈った立派な扁額などが掲げられている。境内には摂社の稲荷神

や春日神の祠や山茶花同人安田尚義の歌碑なども建立されている。



●所在地 / 鹿児島市花尾町 ●交通 / あいばす 花尾神社前バス停 ●駐車場 / 有

## 花尾神社の石塔群 ▶ はなおじんじやのせきとうぐん

市指定 / 記念物 / 史跡

【MAP E-3】

### 島津家初代当主忠久の母と隨身がねむる墓地である



この石塔群の中には、島津家初代当主忠久の母丹後局の墓である多宝塔や僧永金の墓の巨大五輪塔をはじめ鎌倉末期元徳元年

(1329) に建てられた僧快善の逆修塔である月輪塔や室町初期永徳4年(1384)に建てられた相良家関係出家の逆修塔の宝篋印塔を中心に、丹後局の隨身たちと言われる人々の供養塔が多数建てられている。丹後局の墓の横にはお苔石があり、局の安産にあやかって安産を願う人々が地域内外から参拝に見える。

平成17年(2005)、鹿児島市の記念物(史跡)に指定された。



●所在地 / 鹿児島市花尾町 ●交通 / あいばす 花尾神社前バス停 ●駐車場 / 有

## 丹後局御腰掛石と町石 ▶ たんごのつぼねおこしかけいしとちようせき

記念物 / 史跡

【MAP E-3】

この腰掛石は、花尾神社の社殿より六町目(約650m)にあり、島津家初代当主忠久の母丹後局が厚地村と東俣村を湯沐の村と定め、東俣村から厚地村へ行く途中に憩いになった石と言われている。

その横にある角石塔は町石で、「六町」と

刻まれているが、頭部の梵字部分は欠損している。



●所在地 / 鹿児島市花尾町 ●交通 / あいばす 大下バス停 ●駐車場 / 無

## 仁王門跡の仁王像 ▶ おうもんあとのおうぞう

記念物／史跡

【MAP E-3】

この仁王像は、花尾神社の旧参道丹後川の腰掛石から約100mの所にある。仁王堂の痕跡はなく、廃仏毀釈によって壊され、地中に埋められていたものをここに建てたという。脚部が失われ、無惨な姿を晒している。この仁王像と道路を挟んで、大下集落の馬頭観音がある。



●所在地／鹿児島市花尾町 ●交通／あいばす 大下バス停 ●駐車場／無

## 大下の馬頭観音 ▶ おおじものぼとうかんのん

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP E-3】

この馬頭観音は、花尾神社の旧参道沿いに建立されている。「寛政六年」(1794)の刻銘がある。馬神の台石に馬の絵も彫られている。石祠の総高約90cmで奉寄進の下に丸窓を設けてある。この石塔の前には仁王像一対が建っている。



●所在地／鹿児島市花尾町 ●交通／あいばす 大下バス停 ●駐車場／無

## 大平の田の神と馬頭観音 ▶ おおひらのたのかみとぼとうかんのん

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP E-3】

花尾町の大平公民館の敷地内に建立されている角石塔。安永7年(1778)建立で3面に神職型の像が浮き彫りされている。この石碑は田の神と早馬神の一体型で珍しい。角石塔の左側には天日火の神の石祠があり、大平集落の人々によって、大事に保存されている。



●所在地／鹿児島市花尾町(大平公民館敷地内) ●交通／あいばす 大平バス停 ●駐車場／無(大平公民館に駐車スペース有)

## 久保山の田の神 ▶ くぼやまのたのかみ

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP D-3】

この田の神は、花尾町の久保山集落の人々により保存されている。石祠の中に浮き彫りされた神職型の像を安置。明治二十二年三月建立、久保山上下部落会の刻銘がある。(明治22年→1889) 現在も11月13日に秋祭りとして田の神講が続けられ、踊りの奉納などもありにぎわう。



●所在地／鹿児島市花尾町 ●交通／あいばす 久保山バス停又は、花尾校前バス停 ●駐車場／無

## 隠れ念仏洞 ▶かくれねんぶつどう

記念物／史跡

【MAP E-3】

薩摩藩は浄土真宗を厳しく禁止したため、地域の信者達はこの隠れ念仏洞で、密かに300年間信仰を守り続けた。花尾山の裾伝いの道路から山路を約200m登った杉木立の奥にある岩穴で、三角形の入り口から入ると、洞窟の奥は8畳敷きほどの広さがあり、そこに祭壇を置き浄土真宗の禁制が解かれるまで、かくれ念仏行に利用された。今は遠く県外からも

見学者がある。本願寺の僧佐々木教正作「血は輝く」に詳しい。



●所在地／鹿児島市花尾町 ●交通／あいばす 隠念仏バス停 ●駐車場／有

## 向江谷の馬頭観音 ▶むかえだにのぼとうかんのん

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP D-3】

花尾町の向江谷の畜産広場に建つ馬頭観音で、安永4年(1775)4月の作、石祠の中に慈母像の座像が安置されている。郡山地域は昔から畜産に熱心で、大正の初めには国立牧園畜産場の分場もあった。現在は畜産農家も減少の傾向にある。



●所在地／鹿児島市花尾町 ●交通／あいばす 向江谷上バス停 ●駐車場／無

## 石橋「岩戸橋」▶いしばし「いわとぼし」

有形文化財／建造物

【MAP D-3】

この橋は、花尾町の岩戸バス停の近く、旧道の岩戸川に架かる石造りの太鼓橋である。

郡山地域内で、最も古い石橋と言われ、平成5年(1993)の水害でも崩壊流失を免れた。昔は郡山と蒲生を結ぶ道路に架かる橋として、また文化財として貴重な存在である。



●所在地／鹿児島市花尾町 ●交通／あいばす 岩戸バス停 ●駐車場／無

寺社領「厚地村」標示の境界石 ▶ じしゃりょう「あつじむら」ひょうじのきょうかいせき

記念物／史跡

【MAP C-2】



現在の花尾町は、昔厚地村と称され、花尾神社や平等王院などの領地として、周辺の村との境界論争を防ぐため、各村との境界線上

にこの境界石が計画的に建てられた。

建てられたのは天明元年(1781)、島津家25代当主重豪の時で、石碑には正面に「従是東厚地村」や「花尾山領御縄引」などが刻まれ、側面に「天明元年辛丑十月六日」の建立年月日や当時の御目付・山奉行・寺社方取次の名や、郡山郷の嘸・横目などの名が刻まれている。



●所在地／鹿児島市郡山町 ●交通／あいばす 薩摩大浦バス停 ●駐車場／無

茄子田の光明真言梵字碑 ▶ なすびだのこうみょうしんごんぼんじひ

記念物／史跡

【MAP D-3】

茄子田の小字蟻之元の山手の茄子田家跡の山中に建てられている。塔高約120cmの立派な角柱塔婆で、真言陀羅尼の呪文24語の梵字が正面に、その下に「輪春芳園上座」の刻銘がある。梵字碑を含む近くには、僧侶墓や五輪塔群などもあり、近くに昔の寺跡があったとも聞く。



●所在地／鹿児島市花尾町 ●交通／あいばす 中尾バス停 ●駐車場／無

近都宮神社 ▶ ちかとみやじんじゃ

有形文化財／建造物

【MAP D-4】

この神社は、油須木町にあり、創建不詳。三国名勝図会によると、元禄5年(1692)や正徳4年(1714)再興の棟札があったという。御神体は唐金製の御幣で昔祭礼の際使用したという山鉾もある。

別の棟札から、明治7年(1874)現在地に移転改築したことがわかる。県地誌に島津忠季(若狭家)を祭る記録もある。



●所在地／鹿児島市油須木町 ●交通／あいばす 油須木バス停 ●駐車場／有

## 茄子田の田の神 ▶ なすびだのたのかみ

市指定 / 有形民俗文化財 / 民俗資料

【MAP D-3】

### 市の指定文化財で、黎明館にレプリカが展示されている



茄子田の田の神は、凝灰岩を使った神職型の立像で、像の高さ78cm、台石110cmある。像の特徴は膨らんだ頬に、笑顔の眉目で口を開き、阿吽の「阿」の相をした入念な作である。着物は袖と上衣の腹が膨れ、裁着け袴の足の位置にも動きがある。右手に持った杓子は柄

だけが欠け残り、左手にはスリコギを立てて持つ精巧な作で、本県には2体しかない貴重なものと言われ、黎明館裏庭にこのレプリカが展示されている。

宝暦3年(1753)4月26日に、茄子田地区の二十三夜待講の人々によって建立されたと刻んである。

なお、田の神の横の石塔は、正徳年間(1711-1715)に建立された馬頭観音(早馬宮)である。

平成17年(2005)鹿児島市の有形民俗文化財(民俗資料)に指定された。



●所在地 / 鹿児島市花尾町 ●交通 / あいばす 茄子田バス停 ●駐車場 / 有

## 油須木の馬頭観音 ▶ ゆすきのばとうかんのん

有形民俗文化財 / 民俗資料

【MAP D-4】

この馬頭観音の石祠は、現在油須木町のコミュニティセンターの前庭に建てられているが、前は三蔵塚下の広場の一角にあった。陸軍記念日という祝日には、近くで六ヶ村相撲も催されていたが、それも今では過去のものとなった。保存伝承のために移設され、今は油須木町で大切にされている。



●所在地 / 鹿児島市油須木町(油須木コミュニティセンター敷地内) ●交通 / あいばす 油須木バス停 ●駐車場 / 無

## 油須木の毘沙門天 ▶ ゆすきのびしゃもんてん

有形民俗文化財 / 民俗資料

【MAP D-4】

この御堂は、油須木町の近都宮神社近くの丘(上ノ原城跡の一角)の上に建っている。

祠の中には新旧5体の木製の像があって、中央の立像高は約60cm、足の下に魔物を踏みつけ、他に宝棒を持つ神もある。土地の人々は、河童の神として崇拝していて、昔はお

祭りや花見などもしていたという。



●所在地 / 鹿児島市油須木町 ●交通 / あいばす 油須木バス停 ●駐車場 / 無

## 彼岸田の井堰と水神碑 ▶ひがんだのいぜきとすいじんひ

記念物／史跡

【MAP D-3】

この石井堰は、油須木川の上流にあり、弘化3年(1846)に築造されたもので、下流約30m下に2つ目の井堰があり、両岸に導入口がある。

上の井堰の道路崖下に自然石に彫った水神があり、その刻銘により石井堰の建設年月日を知ることができる。水神の対岸には、厚地村の境界石もあり、ここが地理的境といえる。

また近くには、巨大な天然の大岩の根元に直接彫られた水神碑がある。中央に「水神」

と大書されている。弘化3年(1846)の建立とされる。



●所在地／鹿児島市花尾町 ●交通／あいばす 彼岸田バス停 ●駐車場／無

## 乙ヶ山の井堰と水神 ▶おとがやまのいぜきとすいじん

記念物／史跡

【MAP D-4】

この水神は、安政2年(1855)3月吉日の建立で、石井堰とそこからの用水路を守る神である。「地方検者 郷土年寄 郡見廻 用水係 石切主取」の刻銘がある。かつては水田のみならず、賦合つりあひや郡山麓住民の生活用水としても利用されていたが都市計画で、今は縮小し水田耕作だけの管理となっている。



●所在地／鹿児島市油須木町 ●交通／あいばす 賦合住宅バス停 ●駐車場／無

## 池田鼻の井堰と水神 ▶いけだばなのいぜきとすいじん

記念物／史跡

【MAP D-5】

郡山町と小山田町の境、池田鼻の井堰の上に4基よっすいの治水碑がある。天保5年(1834)と同10年(1839)の水神と昭和8年(1933)と同37年(1962)の井堰記念碑がそれで、天保10年(1839)の水神には当時の地方検者や郡見廻・庄屋の名などが刻まれている。この井堰から用水を両岸より取水、田中園うらおから小山田小下までの田園を潤している。



●所在地／鹿児島市郡山町 ●交通／あいばす 池田鼻バス停 ●駐車場／無

## 義士井尻半兵衛の墓 ▶ぎしいじりはんべえのはか

記念物／史跡

【MAP D-5】

郡山町の柿木平の国道沿いの小丘に柿木平霊園がある。その霊園の左一角にこの墓はある。

半兵衛は明治の初め郡山郷の副戸長に選出され、いろいろな制度の矛盾を正すよう諫言かんげんしましたが入れられずに割腹かっぷくした。その正義感に打たれた郷の有志二百数十名はその

いとくしの遺徳を偲び、墓を建てた。墓石の全面には有志の名前が刻まれている。



●所在地／鹿児島市郡山町(柿木平霊苑敷地内) ●交 通／あいばす 池田鼻バス停 ●駐車場／無

## 上園の田の神 ▶うえそののたのかみ

市指定／有形民俗文化財／民俗資料

【MAP C-5】

### 郡山地域で最も古い田の神



この田の神は、元文元年(1736)に建てられたもので、郡山地域では一番古い。高さは約

80cm、笠冠布衣の田の神舞型の像で、頭には大きなコシキのシキを被り、右手に杓子、左手に腕わんを持った立像である。欠落がひどく顔の表情などはっきりしない。白石には、講中の人々らしい名が刻まれている。

平成17年(2005)、鹿児島市の有形民俗文化財(民俗資料)に指定された。



●所在地／鹿児島市郡山町 ●交 通／あいばす 薩摩郡山バス停 ●駐車場／無

## 早馬の馬頭観音 ▶はやまのばとうかんのん

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP C-5】

上園の早馬公園の一角にこの馬頭観音は建てられている。右祠には「明治三十七年四月吉日 奉寄進」(明治37年→1904)とあり、寄進者名も刻まれている。また隣に、「嘉永七年」(嘉永7年→1854) 銘の馬頭観音もある。公園の下には郡山畜産センターがあり、かつては牛馬の品評会など盛んであった。



●所在地／鹿児島市郡山町 ●交 通／あいばす 薩摩郡山バス停 ●駐車場／有

## 菅原神社と招魂の碑 ▶すがわらじんじやとしょうこんのひ

記念物／史跡

【MAP C-5】

郡山城跡の山麓<sup>さんろく</sup>にあり、創建ははっきりしない。地元では今でも「お天神」とも言<sup>い</sup>って、学問の神様として親しみ、崇拝<sup>すうはい</sup>している。境内には西南戦争や日清・日露戦争などの記念碑や招魂碑が建立されていたが、道路拡張などの工事により社殿は改修、記念碑や招魂碑は神

社裏の崖下に移設された。



●所在地／鹿児島市郡山町 ●交通／あいばす 郡山麓バス停 ●駐車場／無

## 郡山城跡 ▶こおりやまじょうあと

記念物／史跡

【MAP C-5】

中世期の郡山城は、郡山麓の北一帯の裏山にあった松尾城・弥五郎城・詰が城・城山の4つの総称である。

はじめは加治木氏が郡山城主であったが、後に村田経安、入来院重朝が居城、平田増宗の時代で終わり、鳥津氏直轄の地頭が山麓

に地頭仮屋を構え、山城の役目が終わった。今は城山と呼ばれ麓の人々に親しまれている。



●所在地／鹿児島市郡山町 ●交通／あいばす 郡山麓バス停 ●駐車場／無

## 地頭仮屋跡 ▶じとうかりやあと

記念物／史跡

【MAP C-5】

江戸時代、郡山郷は鳥津氏の直轄地となり、藩から任命された地頭が行政をつかさどっていて、その役所を地頭仮屋<sup>あつがい</sup>といった。後年地頭は任地に赴任せず、行政は郡山の暖や横目<sup>ぬわ</sup>などの職に任命された土地の郷士が執っていた。県道に面した石垣は、鹿児島城の石垣の

積み方と同じであると言われている。



●所在地／鹿児島市郡山町 ●交通／あいばす 郡山農協前バス停 ●駐車場／無

## 西光山円照寺跡 ▶さいこうざんえんしょうじあと

記念物／史跡

【MAP C-4】

この寺は、川田氏7代立昌の弟龍雲寺3世龍室良従和尚の開基による永正10年(1513)以前にでき、江戸時代の末期まで約350年続いた寺で、廃仏毀釈で壊された。先に急傾斜地域として砂防工事がされたので、無縫塔9基、角石塔3基は現存しながら倒壊、荒地と化

している。郡山町の寺下にある。



●所在地／鹿児島市郡山町 ●交通／あいばす 寺下バス停 ●駐車場／無



## 井手上石井堰と桑原泉壽院 ▶いでうえいしいぜきとくわはらせんじゅいん

記念物／史跡

【MAP C-4】



この石碑は、常盤の井手上の滝の前にあり「寛政十三年辛酉二月吉日、石工桑原泉壽院、奉佛長三百六十間諸取石橋並石壇、外郷士在中加勢二百人余」(寛政13年→1801)の刻銘と主取人の名などが刻まれている。藩

政時代に山伏桑原泉壽院が築いた石井堰があったことがわかるが、平成5年(1993)の水害で決壊してしまった。

今は記念碑が残るだけであるが、泉壽院の墓は八重山の麓、甲突池近くの桑原家の中に建立(五輪塔)されている。



●所在地／鹿児島市郡山町 ●交通／あいばす 常盤バス停 ●駐車場／無

## 常盤五輪塔群 ▶ときわごりんとうぐん

市指定／記念物／史跡

【MAP C-4】

### 中世の歴史を知ることのできる貴重な石塔群



この五輪塔群の中には、古くから常盤御前の墓と言われる石塔があったが、昭和56年(1981)ゆかりのある人々の協力で、付近に埋没していた100基余りの五輪塔や宝塔・層塔などを復元した。その後研究者により、大型五輪塔は鎌倉期の川田氏一族のものと同型と推

定された。

復元された数基の墓の相輪の形が市来氏や鯨島・黒葛原氏のものに類似したものもあり、中世の歴史を知ることのできる貴重な石塔群である。

なお石塔群の前に、明和2年(1765)の庚申供養塔や有縁無縁の万霊供養塔もあり、地域の見守りが続けられている。

平成17年(2005)、鹿児島市の記念物(史跡)に指定された。



●所在地／鹿児島市郡山町 ●交通／あいばす 常盤集落センター前バス停 ●駐車場／無

## 大浦霊園の五輪塔群 ▶ おおうらいえんのごりんとうぐん

記念物／史跡

【MAP C-3】

この五輪塔群は道路に面した前面に建立されており、昔近くにお寺があったのではと言われている。

塔高は約160cmくらいで、「延宝三天三月九日 妙春銘」(延宝3→1675)、正面には五字真言の梵字が刻まれているものと、「延宝元年七月六日 節心 宗傳銘」(延宝元年→1673)の五輪塔で、正面に梵字が刻まれて

いるものがある。

その他に角石塔などもあり、大浦の方々の供花がなされている。



●所在地／鹿児島市郡山町(大浦郷土霊苑敷地内) ●交通／あいばす 薩摩大浦バス停 ●駐車場／無

## 山祇神社の庚申水鉢 ▶ やまみじんじやのこうしんみずばち

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP C-3】

この手水鉢は、大浦の山祇神社の社殿横にあり、「明治三十年丁酉二月吉日」(明治30年→1897)と「大浦下組 白坂 藤崎」などの刻銘があり、寄進者と思われる。手水鉢の横に青年達の力比べ用の力石がある。



●所在地／鹿児島市郡山町 ●交通／あいばす 薩摩大浦バス停 ●駐車場／無

## 垂門石井堰と水神 ▶ たるかどしいげきとすいじん

記念物／史跡

【MAP D-5】

郡山支所下の垂門石井堰は、高さ約3m、横幅約5mの石畳と8段の石段からなり、自然石をうまく利用している。この井堰に取り付けられた用水路は小山田町あたりまで、約2km近い田園地帯を潤す。井堰の水神碑には、「弘化四年正月吉日」(弘化4年→1847)の建立時期、

石工や郡山郷の役人の名などが刻まれている。



●所在地／鹿児島市郡山町 ●交通／あいばす 郡山支所前バス停 ●駐車場／無

## 平原の毘沙門天像 ▶ ひらばらのびしゃもんてんぞう

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP B-3】

この毘沙門天は、郡山・川内線の工事の関係で、公民館内に安置されるようになったものである。像高約60cmの2体の木像の立像については、神にまつわる民話がある。

えをしているという。(郡山の民話と伝承参照)

近くの水神に青ヶ淵があり、水難に合わないように「だごかん」祭りをして毘沙門天にお供



●所在地／鹿児島市西俣町(平原公民館内) ●交通／あいばす 平原バス停 ●駐車場／無

## 西俣上の水神 ▶にしまたかみのすいじん

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP C-4】

この石碑は、西俣上の運動場近くの小丘、墓地の前にあり、笠塔婆型で、正面に「宝永五年 奉水神石 二月吉日」(宝永5年→1708)と刻銘されている。また右側面には、当時の人名も読みとれる。郡山地域の水神では古い方で、基盤整備を行った田園や神之川を望み、

水害などから見守ってくれているかのようなのである。



●所在地／鹿児島市西俣町 ●交通／あいばす 開バス停 ●駐車場／無

## 西俣上の馬頭観音 ▶にしまたかみのばとうかんのん

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP C-4】

この石祠は、寛文6年(1666)3月吉日に建てられ、「馬頭観音菩薩」の刻銘がある。西俣上公民館と道を挟んだ孟宗竹林の一角で、この石祠の横には自然石の火の神が祭られており、西俣上公民館の管理下で、丁寧に見守られている。この道を登っていくと辺牟木氏の

居城である平城跡にたどりつく。



●所在地／鹿児島市西俣町 ●交通／あいばす 西俣上バス停 ●駐車場／無

## 平城跡 ▶ひらじょうあと

記念物／史跡

【MAP C-4】

西俣上公民館の東側の山道を登り左側の山に入ると、南側へ深い堀切があり、そこを登った所が本丸跡らしい。平城は中世のころ一帯を治めていた比志島氏の一族で、辺牟木氏の居城と言われている。比志島重賢の五男辺牟木又五郎義隆が初代城主で辺牟木城と

も言われ、現在も小字辺牟木・平ノ城・寺平・前園などがある。



●所在地／鹿児島市西俣町 ●交通／あいばす 西俣上バス停 ●駐車場／無

## 霧島神社 ▶きりしまじんじや

有形文化財／建造物

【MAP C-5】

この神社は西俣町の中央にあり、創建年不詳、県地誌によると祭神は彦火火出見命ほか男神5体とある。

寛文8年(1668)寄進の陶器の狛犬一対や石燈籠・手水鉢・天師神の石祠などがある。

明治4年(1871)西俣の中、下与一同とあり、この2組が神社の氏子で神社の改修に当たったことが分かる。



●所在地／鹿児島市西俣町 ●交通／あいばす 北園バス停 ●駐車場／無

## 聖ノ城跡 ▶ ひじりのじょうあと

記念物／史跡

【MAP C-5】

西俣下に通称「城山」と呼ぶほぼ円形の山がある。比志鳥重賢の二男西俣盛忠（西俣弥三郎）の居城がこれである。この城跡の西の山裾に一對の狛犬や五輪塔数基があるが、そこから急な山道を登ると、頂上はほぼ円形の広場がある。本丸の跡だろうか。馬の背のような雑木林を通ると南北ともに絶壁で天然の要害となる。



●所在地／鹿児島市西俣町 ●交通／あいばす 西俣下バス停 ●駐車場／無

## 和田井堰の水神・記念碑群 ▶ わだいでせきのすいじん・きねんひぐん

記念物／史跡

【MAP B-5】

神之川に架かる9番目の井堰を見守る水神や修理などの記念碑群である。

この井堰の上に、弘化2年(1845)2月、明治26年(1893)4月の水神と、昭和10年(1935)、同26年(1951)、平成7年(1995)の井堰修理の記念碑もあわせ建っている。農民や地権者による維持・継承の姿を知る石碑群である。用水路は全長2.5kmと言われている。



●所在地／鹿児島市有屋田町 ●交通／あいばす 西俣下バス停 ●駐車場／無

## 智賀尾神社 ▶ ちかおじんじや

有形文化財／建造物

【MAP C-5】

この神社の祭神は、陽神6座、陰神6座で、日本三代実録に貞観2年(860)3月、從五位上の位階が授けられたとある。神社は初め嶽の上宮嶽にあったが、里岳の餅ヶ岡に遷座され、その後現地に祭られたという。明治4年(1871)8月県社に列せられ、昭和10年(1935)には昭和天皇行幸の折、神饌幣帛料を賜わった。藩主や地頭の手厚い保護も受ける神格の高い神社であったが、現在は地区民

が氏子として、<sup>うぶすなぐみ</sup>産土神・農業神など人々の守護神として崇敬の厚い神社となっている。東市来町や入来町にある智賀尾六所権現の本社として由緒深い神社でもある。



●所在地／鹿児島市郡山岳町 ●交通／あいばす 里岳バス停 ●駐車場／無

## 里岳の宝塔 ▶ さとだけのほうとう

記念物／史跡

【MAP B-5】

県道山田・湯之元線沿いの民家の東側庭先の塀の中にある石塔で、建立年月日は不詳、税所義祐（満家院郡司）の二男信祐とその子上神殿太郎道祐関係のものとして推定されている。3基のうち左右の2基は生前供養の逆修塔と考えられ、中央の1基は納骨塔と見られる。

塔身に他の五輪塔の水輪が代用されている。



●所在地／鹿児島市郡山岳町 ●交通／あいばす 山田岐バス停 ●駐車場／無

## 里岳の五輪塔群 ▶ さとだけのごりんとくぐ

記念物／史跡

【MAP B-5】

県道山田・湯之元線の山田岐バス停から、西方へ約200mゆるやかな坂を登った右の雑木林の中にある小さな石塔群。石塔は五輪塔と宝塔など生前供養のものと考えられる。

里岳方面まで伸びていたことが推定される。

約18基の中の2基の相輪から伊集院氏や黒葛原氏のものと言われるので、そちらの勢力が



●所在地／鹿児島市郡山岳町 ●交通／あいばす 山田岐バス停 ●駐車場／無

## 石廟と宝篋印塔 ▶ せきびょうとほうきょういんとう

記念物／史跡

【MAP B-4】

この石廟と宝篋印塔は、里岳の公民館と道路を挟んで民家の庭先にある。石廟の中の宝篋印塔には、「文正元年」（文正元年→1466）の刻銘があり、妙徹銘から、当時の僧侶の供養塔と考えられる。近年石廟の壁面の表と裏に49院の線刻の五輪卒塔婆を確認したが、県内では大変珍しい石塔ということになった。

「正徳四年二月吉日」（正徳4年→1714）銘と講人24人の文字が読みとれる。

なお、道路の反対側の里岳公民館にも石塔がある。

石廟の左隣には庚申供養塔の燈籠があり、



●所在地／鹿児島市郡山岳町 ●交通／あいばす 公民館バス停 ●駐車場／無

## 里岳の水天と水神碑 ▶ さとだけのすいてんとすいじんひ

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP B-4】

神之川の上流、轟滝の上の森の中に、寛保4年（1744）建立の水天碑が、1つは道路沿いに建つ水神碑で「文久二年」（文久2年→1862）の刻銘と当時の庄屋や名主・門名などが読みとれる。

雨・旱魃などの災害時に建てられている。

水神は井堰や用水路の建設時や台風や豪



●所在地／鹿児島市郡山岳町 ●交通／あいばす 轟ヶ滝バス停 ●駐車場／無

## 餅ヶ岡の保食神 ▶ もちがおかのうけもちのかみ

有形民俗文化財 / 民俗資料

【MAP B-4】

この保食神は、里岳の餅ヶ岡公園の一角に建立された石祠型の石碑である。

五穀をつかさどる神・食物の神で、里岳地区の人々によって見守られている。公園は高地で展望が開け、銅板葺きの神殿は智賀尾神社の神官永尾氏が建立したものである。



●所在地 / 鹿児島市郡山岳町(餅ヶ岡公園内) ●交通 / あいばす 轟ヶ滝バス停 ●駐車場 / 無

## 宇都原遺跡 ▶ うとばるいせき

記念物 / 史跡

【MAP B-4】

この遺跡は、郡山岳町の農免道路沿いにあり、昭和63年(1988)8月22日から9月20日まで、農道整備に伴い発掘された。発掘調査の結果、縄文時代早期の平椀式土器や壱ノ神式土器、後期の出水式土器、晩期の黒川式土器などが出土した。



●所在地 / 鹿児島市郡山岳町 ●交通 / あいばす 公民館バス停 ●駐車場 / 無

## 熊野神社 ▶ くまのじんじゃ

有形文化財 / 建造物

【MAP B-3】

郡山岳町の平公民館の隣に建てられた熊野神社、この神社は初め岳町の北方にそびえる上宮嶽の頂近くにあったが、後に現在地に遷したとの記録がある。神社内には棟札8枚が保存されており、神社の修理・改修が度々行われたことや、関係の人々の名前、祈願の様子がわかる。

旧参道には阿弥陀堂もある。



●所在地 / 鹿児島市郡山岳町 ●交通 / あいばす 平バス停 ●駐車場 / 無

## 里岳の阿弥陀堂 ▶ さとだけのみみだどう

記念物 / 史跡

【MAP B-3】

本岳の熊野神社前の旧参道、社殿から約100mの道路沿いに建立されている御堂である。阿弥陀堂は1m四方で、その中に阿弥陀如来像約57cmと薬師如来像約21cmの座像が安置されている。

の安全や繁栄を祈っておられる。



●所在地 / 鹿児島市郡山岳町 ●交通 / あいばす 平バス停 ●駐車場 / 無

## 雪元入口の庚申供養塔 ▶ゆきもとといりぐちのこうしんくようとう

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP B-3】

この石碑は、旧樋脇街道沿いの三叉路に建つ庚申供養塔で、元禄15年(1702)に、嶽・平・雪元の講人達が携わっている。碑文には「是從西樋脇街道 東入來街道」とあり、道路標識を意図して建てたことがわかる。庚申のための人々の善行が示されたのではなかろうか。



●所在地／鹿児島市郡山岳町 ●交通／あいばす 雪元バス停 ●駐車場／無

## 仕明の御山神 ▶しあけのおんやまがみ

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP A-3】

この山神の石祠は、仕明集落の入口にあり、石祠の正面に「御山神奉新建立 元文三年戊午二月一日(元文3年→1738)と刻まれている。石祠の中に三神の立像があり、両脇に神職、中央は僧職の立像で合掌の形も三神三様で印象的である。仕明(開拓)のため入植してきた人々の祈りの姿を感じるものがある。



●所在地／鹿児島市郡山岳町 ●交通／あいばす 仕明下バス停 ●駐車場／無

## 有屋田の庚申供養三層塔 ▶ありやだのこうしんくようさんそうとう

市指定／有形民俗文化財／民俗資料

【MAP B-5】

### 郡山地域で一番古い庚申塔



この供養塔は、慶安3年(1650)の作で、有屋田氏が日向の高岡郷に強制移住したのち、有屋田地区の講人たちが、有屋田氏の墓地跡に建てたものである。

塔の高さは約3mで、上部に欠落がある。

塔の1番上の塔身の4面には、釈迦如来や阿彌陀如来などの梵字が、上2番目には4面に五大種子の梵字が、また3番目には、塔建立に関係した22名の講人や作者上山備左衛門の名前も彫られている。

現在有屋田地区の人々が大切な文化遺産として大切に見守り、集落みんなの絆を結ぶ場所として大切にされている。

平成17年(2005)、鹿児島市の有形民俗文化財(民俗資料)に指定された。



●所在地／鹿児島市有屋田町 ●交通／あいばす 有屋田バス停 ●駐車場／無

## 有屋田城跡 ▶ありやだじょうあと

記念物／史跡

【MAP B-5】

この城は、伊集院氏の庶流の麦生田氏の子忠房が初代有屋田氏を起こし築城、8代久逸が島津氏の命により、慶長5年（1600）に日向の高岡郷に強制移住するまでの約200年間、居城した所である。

自然の急峻な断崖と人工を加えた堀や塁が

あり、攻めるには難しい城であった。対岸には聖ノ城がある。



●所在地／鹿児島市有屋田町 ●交通／あいばす 有屋田バス停 ●駐車場／無

## 有屋田氏の墓石跡 ▶ありやだしのぼせきあと

記念物／史跡

【MAP B-5】

伊集院忠国の孫忠房が有屋田三郎兵衛として、有屋田氏を称してから8代久逸が、慶長5年（1600）薩摩藩が高岡郷を設立した際、宮崎県の高岡に強制移住を命ぜられるまで、200年間有屋田氏の墓地であった。

移住する際に、ほとんどの墓石は高岡へ運

ばれたが、宝篋印塔の土台などが残ったものである。



●所在地／鹿児島市有屋田町 ●交通／あいばす 有屋田バス停 ●駐車場／無

## 有屋田の南方神社 ▶ありやだのみなみかたじんじゃ

有形文化財／建造物

【MAP B-5】

この神社は、島津氏が尊崇した神社で、島津氏の一族である伊集院氏から分かれた有屋田氏が、ここに住み着き勧請したのでらう。神社の拝殿横の境内には一対の庚申供養塔を元禄11年（1698）10月に寄進している。神社から北へ約100m行くと有屋田城跡や庚申供養三層塔がある。



●所在地／鹿児島市有屋田町 ●交通／あいばす 有屋田バス停 ●駐車場／無

## 有屋田の庚申供養塔 ▶ありやだのこうしんくやうとう

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP B-5】

この燈籠型の石塔は、南方神社の社殿の横に一対あり、「奉寄進庚申 元禄十一年十月吉日」（元禄11年→1698）の刻銘がある。庚申のための講人達が供養のための善行として、燈籠を神社に寄進したと考えられる。



●所在地／鹿児島市有屋田町(南方神社敷地内) ●交通／あいばす 有屋田バス停 ●駐車場／無

## 鹿児島のお祭り

鹿児島市には、八坂神社の例祭「おぎおんさあ」をはじめ、南方神社の諏訪市など神様信仰の大きな祭りやおはら祭りなど市民も一体となった祭りが毎年盛大に催されている。また民間信仰の田の神・山の神・水神祭りや庚申待ち・二十三夜待ちなどの待ち行事、地鎮祭など建設工事に伴う祭りなどいろいろあり、神々崇拜や豊作に感謝する祭りが保存伝承され、地域の活性化にも役立っている。

ここで、郡山地区の花尾町で保存伝承されている花尾神社のお祭りを紹介したい。

この神社には、島津家初代当主忠久の母丹後局、源頼朝、丹後局が帰依した僧永金（ながね）が祭られており、神社の秋の大祭は毎年9月23日の秋分の日に開催されるが、江戸時代に作られた三国名勝図会に次のような記述がある。「毎年8月12日、厚地の農夫、当社の前庭に於いて、金鼓を奏して舞躍を興行す。其の次に婦女の舞躍あり、諸方より聚観して、甚間然（にぎやか）なり」と農民の舞躍の項に記述されている。

祭りは、まず式典で始まる。神社の拝殿や幣殿に地域の諸団体の責任者や島津家当主などの参加の下、厳肅に執り行われる。式典が終わって直会（神事が終わった後、おみき・神饌をおろしていただく酒宴）があり、続いて奉納の踊りが始まる。踊りは花尾町に今も保存伝承されている大平の獅子舞・花尾の太鼓踊り・岩戸の疱瘡踊りがあり、特別参

加に他町の西上の太鼓踊り・西俣の八丁杵踊りなどが奉納される。参道には農具や野菜の苗、いろいろな食べ物の店が並び、町の内外からたくさんの方々が集う。

平成14年（2002）から、蟻の熊野詣でに因み、蟻の花尾詣でと銘打って、鹿児島（鶴丸）城跡から古道沿いに花尾神社まで約17.5kmを踏破する。参加者は郡山ブロックあいご会やスポーツ少年団、郡山商工会青年部、マグニチュウド21のメンバーなど約150名が参加、途中から丹後局に扮した女性の乗った神輿（みこし）や甲冑姿の一行が合流参拝する。

こうして秋の一日を祭り一色にしてにぎわうのだが、近年過疎化や高齢化による後継者不足が問題になりつつある。そんな中花尾小学校文化財少年団の参加はかわいく心強い。あちこちから村祭りの声が聞こえてくるなかで衰退傾向にある民間信仰の祭りについて、その保存伝承には課題もあるようだ。祭りはふるさとを懐かしむ人々も多く、各方面からの支援が必要であろう。

### その他の祭り

しめ縄張り・雛節句（桃の節句）・端午の節句（あくまきつくり）・七夕祭り・方祭（ほぜ・甘酒を神様へ）にせ入り（庚申の夜や山の神講の夜などに実施）・繭のもち（家内繁栄の祈り）・モグラ打ち（豊作の祈り）・カセダ打ち（新築の家を七福神が訪れて祝う）などがある。

